



川口地区について

川口地区は、熊本市の西南部に位置し、宇土市との境界にあります。この境界には、有明海にたくさんの栄養を運ぶ緑川があり、その河口前面には大きな干潟が広がっています。

川口地区は、農業と漁業の町です。米やトマト等の野菜、ハマグリやアサリ、海苔などの生産地となっています。

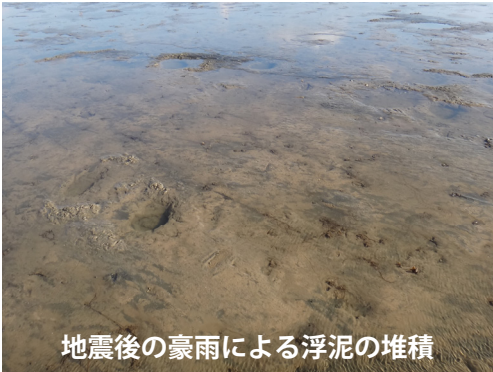


川口地区の干潟について

川口地区を流れる緑川の河口干潟は約 22km²を有しており、砂質干潟としては日本で最も規模が大きいといわれています。

干潟には、ハマグリやアサリなどの貝類が数多く生息しています。また、その前面は海苔の生産場になっており、熊本市の 3 漁協と、隣接する宇土市の 2 漁協がこの干潟で採貝業や海苔養殖を営んでいます。

このように恵み多き干潟ですが、ホトトギスガイの異常発生や 2012 年の九州北部豪雨による土砂の堆積などの影響で、二枚貝資源が大きく減少しています。また、昨年度 4 月に発生した熊本地震及びその後の豪雨による浮泥等の影響も懸念されます。



組織の活動方針

干潟の二枚貝資源を減耗させる要因はさまざまです。また、年が変わるたびに変化もします。現在、地区では、ナルトビエイなどの魚類による食害、ホトトギスガイの大量発生による競合、豪雨等による河川からの浮泥の堆積が二枚貝等の生息を脅かしています。

こうした背景から、「子どもや孫に豊かな干潟を残そう」という思いで、平成 24 年に川口二枚貝保全活動組織を設立しました。

活動方針は、主に①アサリやハマグリの母貝を一定量保護し、稚貝の供給を安定させること、②稚貝沈着を促進し有効活用することです。これら方針を進めるために、下記の取組を行っています。

① 母貝を保護し、稚貝の供給を安定させる	
保護区の設置と管理	周年定期的
母貝の移植	5 月や 9 月
耕うん及びツメタガイ等の除去	5～6 月, 9～10 月
② 稚貝沈着を促進し有効活用する	
アサリの稚貝沈着促進	6～7 月, 9 月
③ その他	
浮遊・堆積物の除去、ヨシ帯の刈り取り	6 月・9～10 月, 2 月

母貝を保護し、稚貝の供給を安定させる

熊本県では、二枚貝資源の生産を少しでも安定させるため、ナルトビエイの侵入や漁獲を防ぐ区域を設定する取り組みを行っています。我々も保護区域を設定し、一定量の親貝を産卵前に移植し守っています。ハマグリの保護は、上手くいっています。しかし、アサリについてはツメタガイ等を区域内で除去するのですが、直ぐに周囲から侵入するのか食害を抑えることができず、課題になっています。

そこで、アサリの生息密度が比較的高い岸側の覆砂区域を新たな保護区域として追加し、今年度の秋からその区域でアサリの保護を行うことにしました。2 ヶ月後の 11 月の追跡調査では、1m²あたり 440 個のアサリが確認されたことから、適切に移植できたと思われます。

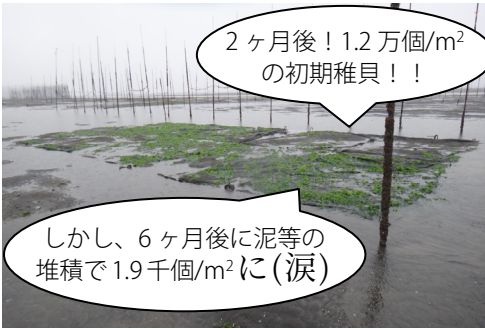


稚貝沈着を促進し、有効活用する

二枚貝資源の回復速度を高めるには、稚貝を効率的に捕集し、有効活用する必要があります。地区では、網袋を活用した稚貝捕集活動を実施していますが、捕集量が 1 袋あたり平均 33 個と少なく、課題になっています。そこで、昨秋から今春にかけて、小さい目合(4mm 目)の被覆網を稚貝の発生が良好な場所の近くに試験的に設置し、その効果を検討しました。

その結果、設置 2 ヶ月後に、網を張った場所で 1.3 万個の初期稚貝(対照区の 5 倍)を確保できました。しかし、6 ヶ月後に調査を行ったところ、被覆網に砂やアオサが堆積した影響で稚貝密度が約 1/6 まで減少し、網の維持・管理が課題となりました。

一方、今秋実施したモニタリング調査で、以前、碎石(約 2～4mm の礫)を覆砂した区域や新設したアサリ保護区域の柵の波裏側で、1m²あたり千個を超える稚貝(殻長 20mm 未満)を確認しました。今後は、これら区域の稚貝を効果的に保護・活用する方法の検討を進めたいと思います。



豊かな干潟の再生をめざして

現在、地区のアサリ漁獲量は、熊本大地震の大きな影響もなく、緩やかに増加している。この傾向をより促進させるため、今後も、保護区における親貝の生残率向上や稚貝の効率的捕集の検討を進め、二枚貝資源の回復を目指していきたい。

